

富士山

世界遺産

日本一の高さ（標高3776m）を持つ富士山は、2013年6月に

富士山―信仰の対象と芸術の源泉―の名称のもと

世界文化遺産に登録されました。

その背景には、富士山が

「信仰の対象」であるとともに

「芸術の源泉」として、

日本人の自然観や日本文化に

大きな影響を与えてきた歴史があります。

小山町内では、

須走口登山道

富士浅間神社（須走浅間神社）

が構成資産として登録されました。

須走口登山道

富士浅間神社を起点として、8合目で吉田口登山道と合流し、山頂東側に至る須走口登山道の歴史は古く、江戸時代には特に多くの登山者で賑わいました。他の登山口に比べて植生が豊かで、緑に恵まれた登山道の傍らでは季節の花々や野鳥たちが登山者を楽しませてくれます。



富士浅間神社（須走浅間神社）

延暦21（802）年、富士山東側が噴火した際、須走に斎場を設け、鎮火祭を斎行したところ、同年4月初申の日に噴火が収まりました。大同2（807）年に祭事の跡地に神をお祀りしたことが神社の創建と伝えられます。以降、富士講信者が多く立ち寄り、登拝記念碑が約70基残されています。

